

# 西宮市立郷土資料館ニュース 第45号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944 電話 0798-33-1298

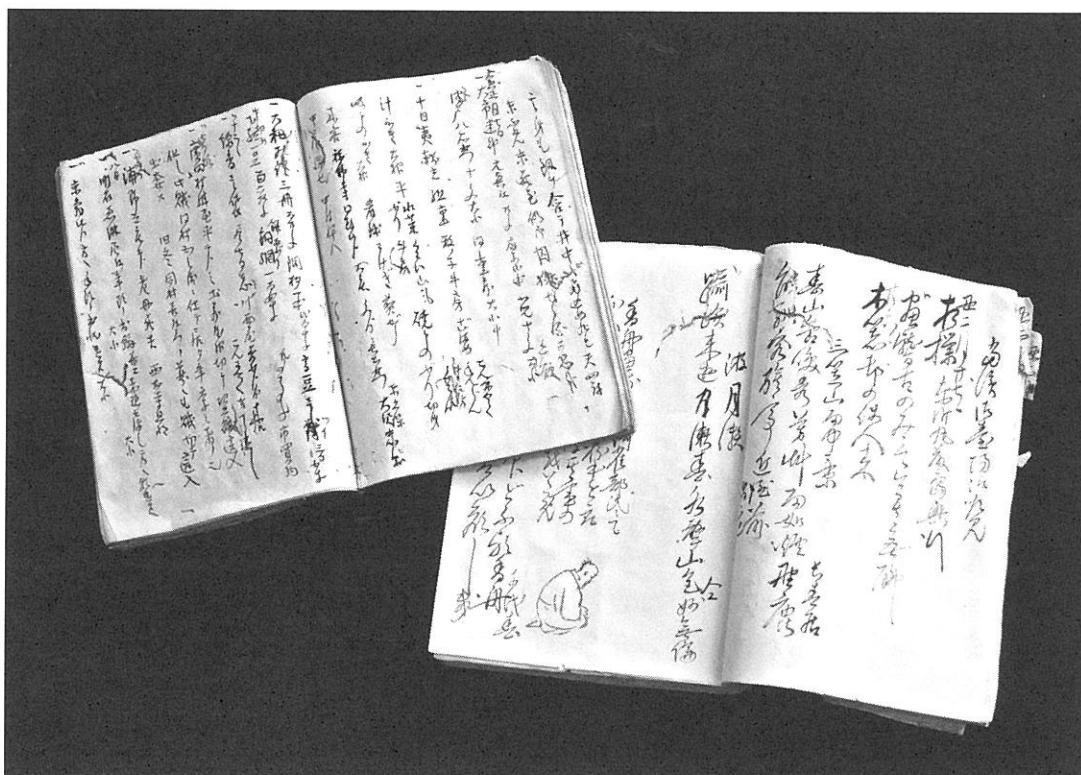
## 特別展示「西宮町人の生活と文化—江戸時代の日記を読み解く—」

衛藤彩子（当館嘱託）

### はじめに

当館では、平成28年（2016）7月16日（土）から8月28日（日）まで、第32回特別展示「西宮町人の生活と文化—江戸時代の日記を読み解く—」を開催している。西宮町人が日常的に記録した日記を中心に紹介するものである。

さらに、平成28年2月に西宮市指定文化財となったばかりの「西宮神社御社用日記」（西宮神社蔵）も展示し、当館所蔵の日記と合わせながら多角的な視点の展覧会を目指した。



【写真1】 西宮町人真多長左衛門の日記（真多家文書）

## 1. 日記を読み解く

江戸時代の西宮町といえば、西宮神社（えべっさん）の門前町、幕府指定の宿駅「西宮宿」、酒造業と酒を江戸へ運ぶ廻船業の町で知られ、そのイメージは市民にも親しまれている。一方で、当時の人々が、どのような生活をしていたのかについては具体的な姿を想像しにくい。

手がかりとなる史料としては、当該の時代では古文書が有効である。当館には、江戸時代の古文書が2万点以上保管されている。ほとんどが「岡本家文書」（市指定文化財）に代表される農村のものであるが、西宮町のものも数千点に及ぶ。ただし、種類には偏りがある。酒造業、廻船業の業務に関する証書類、帳面類が多い。行政に関する古文書では、宗旨人別帳が450点以上と突出している。

江戸時代の西宮町の生活を記したものでは、江戸時代中期から後期にかけての町の移り変わりを書いた坂倉（海老屋）信明『桜戸雑話』（市指定文化財）<sup>(1)</sup>や、幼い頃に見聞した幕末の様子を書いた吉井良秀『老の思ひ出 一名西宮昔噺』（昭和3年）が知られている。どちらも史料として貴重だが、随筆は推敲を重ねた上でまとめられ、実際に体験したことばかりではなく伝聞も多い。もちろん、日記も、江戸時代は毎日記すというより、日々の備忘録から必要な情報をまとめて書いている。それでも、雑多なできごとが含まれ、それがいつ起こったのかが分かるため、他の記録と比較ができる利点がある<sup>(2)</sup>。丁寧に日記を読み解いていくと、当時の西宮町人の交友関係などを知ることができる。

## 2. 真多長左衛門の日記

本展示は、西宮町人真多長左衛門の日記2点を中心に、それらの内容に沿って展開した。真多長左衛門は、質屋や醤油屋などを営み、浜石才町の年寄役も担った富裕な商人である。3代目長左衛門の文化2年（1805）7月から翌年6月まで1年間の日記「雑事家記」<sup>(3)</sup>と、4代目長左衛門の慶応元年（1865）の正月から年末まで1年間の「慶応元年日記」<sup>(4)</sup>がある。もっとも、実物資料は1点ものであるため、共通の事項が書かれた同年代の「西宮神社御社用日記」も展示し、立体的に紹介することに努めたが、1点の中に豊富な事柄を含む古文書展示の難しさを感じた。

文化年間の「雑事家記」には、真多家の日常生活、例えば、節句の行事などが記されているだけでなく、西宮町で起こった事件（夙川で起こった殺人事件）、事故（西宮町らしい酒蔵での転落事故）も記されている。また、文化2年10月には、伊能忠敬が日本地図製作のための測量で西宮町に泊まり、空き地で測量したとの記述もある。展示だけでは紹介しきれないできごとは、展示案内図録で紹介した。

「慶応元年日記」が書かれた頃は、異国船からの防備のため各地で御台場が造られ、西宮の浜でも西宮砲台を含む御台場（国指定史跡）が建造中であった。ま

た、第2次長州征伐のため西宮宿を幕府軍が通行している。それらに対する西宮町人側の動きが良く分かる。特に慶応2年頃に完成したといわれる西宮砲台の完成間近の記録は貴重である。実際に異国船が兵庫津まで渡来し、西宮町でも不安が増していた時期に、砲台に対する期待が高まっている様子が見てとれる。

### 3. 西宮神社に集う人々

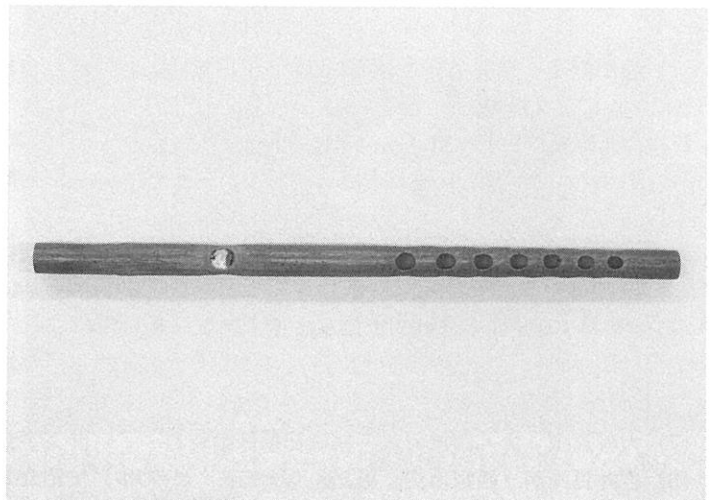
西宮神社は、西宮町にとっては氏神である一方、神事には近在から多くの参詣者が詰めかけた。真多長左衛門家では、1月10日の十日戎、10月20日の誓文払いなどには、親類縁者に招待状を送り、来客には料理を振る舞ったことが、日記に記された名前や献立から分かる。

尼崎藩の大庄屋を勤めた上瓦林村岡本家の日記「数歳萬覚日記帳」（市指定文化財）<sup>(5)</sup>によると、親類縁者の村の氏神の神事へ出かけている（これは、西宮町人の真多長左衛門も同じ）。神事が町村内だけでなく、もっと広い人的交流を生み出している。その中でも西宮神社は格別で、岡本家の人々も、ことあるごとに参詣し、西宮町の親類、知人宅で食事をしている。

今回、特に注目したのは8月22日の神事である。この日も、西宮町の真多家では客を招いている。一方、岡本家では、毎年、家の休みとしている。そして、岡本家の家族だけでなく、奉公人（下男・下女）たちも全員西宮町へ出かけている。西宮町では、奉公人たちは思い思いの場所に自由に出かけていたようだ。岡本家以外の事例をまだ見つけていないが、この日を家の休みとする理由は、季節的なものか、何かほかに意味があるのか気になるところである。

### 4. 西宮神社の氏子としての西宮町人

室町時代に神輿に騎馬で供奉したという伝承を持つ「馬家」の一つに辰馬家があり、西宮神社の有力な氏子であった。その当主辰馬主計（与三左衛門）が、元文4年（1739）、西鳴尾（現南甲子園付近）に砂浜神社を建立する。そして、主計は神祇伯白川家によって神主となる。さかのぼること正徳4年（1714）、西宮神社の神職の権限を巡る争論により白川家は執奏の地位を失っていた。白川家が、砂浜神社建立と辰馬主計の神主就任に助力したのは、西宮神社の支配を行え



【写真2】 辰馬家所蔵の横笛

なくなったことと関係していると思われる。

もともと、砂浜神社建立後も、辰馬主計は西宮神社へ寄進をしており、西宮神社の氏子と独自の神社の神主という二重の立場を維持していたようだ。

辰馬家には、大坂画壇の大岡春卜が描いた辰馬主計の肖像画、辰馬の屋印を染めた暖簾、文化12年（1815）と刻銘のある横笛が伝わっている。横笛は今回の展示にもなう史料調査で明らかになった。詳細な経緯は不明だが、年号のほかに「蛭子宮住 土幸邦」と刻銘があり、蛭子宮＝西宮神社と関係すると思われる。

## むすび

「西宮町人の生活と文化」と銘打った本展示だが、文化活動については、西宮町の枠を越えて活躍した二人の紹介にとどまった<sup>(6)</sup>。一人は勝部（疎竹庵）青魚（1712～1788）という医者で、随筆と句集を残しており、先述した『櫻戸雑話』にも登場する。『雨月物語』の作者上田秋成に影響を与えた友人として文学史では知られる人物で<sup>(7)</sup>、今回、大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵の青魚還暦祝い句集『桑蓬集』を展示し、紹介した。奥付には今津の彫工師伊藤為次郎の名があり、地元で作られ、仲間内に配られた版本だということが分かる。

もう一人、酒造家の千足真言（生没年不詳）は、江戸在住のときに国学者で歌人の賀茂真淵の門人となっている<sup>(8)</sup>。江戸の邸宅に仲間を呼び、自家の酒を振る舞った話も伝わる。

真多長左衛門の日記にも、仲間たちと酒を酌み交わしながら狂歌や漢詩を詠む様子や、「先生」と呼ばれるような人が西宮町を訪れている様子も記録されている。しかし、記された人物の特定や、文化活動の詳細を明らかにするには、さらに調査研究を進める必要があり、今後の課題である。本展示を契機に、文化的に豊かだった西宮町人の生活について、さらに研究を深めていきたい。

## 註

(1) 池田直子「資料紹介 坂倉信明『櫻戸雑話』」（西宮市市立郷土資料館『研究報告』第2集 1993年）に全文掲載。

(2) 西宮町人の日記には『西宮市史』第5巻（西宮市 1963年）掲載の天明7年（1787）～文化7年（1810）「四井屋久兵衛覚之事」があるが、残念ながら実物資料は所在不明となっている。

(3) 真多家文書4。

(4) 真多家文書10。表紙を含めた一部が欠落しているため、仮に「慶長元年日記」とした。

(5) 岡本家文書O-1-2、O-1-3の2点。それぞれ延享3年（1746）～明和4年（1767）、明和5年（1768）～天明3年（1783）に岡本家当主によって書かれた。

(6) 『西宮市史』第2巻の第8章（2）「文芸の盛行」にて、今津、西宮の文化活動について網羅的に紹介されているが、整理・体系化は進んでいるとはいえない。

(7) 大谷篤藏「俳人勝部青魚—秋成初期俳諧資料—」（俳文学会『連歌俳諧研究』1978年）。

(8) 吉井良尚が『西宮市史』第2巻（西宮市 1960年）で紹介し、その後「真淵門人 千足真言について」（西宮文化協会『西宮文化』第13号 1967年）としてまとめている。

# さくらFMウォーク～ラジオから発信する新しい野外講座～

俵谷和子（当館学芸員）

## はじめに

当館の教育普及事業において文化財や史跡を巡る野外講座は人気が高く、毎年3～4回ほどのペースで開催している。

そもそも当館の野外講座のはじまりは、平成17年1月に実施した小学生向けのハンズ・オン「土曜てんじ室」<sup>(1)</sup>での事業「きょうどしりょうかんの史跡ハイキング」からである<sup>(2)</sup>。その後は館蔵の「慶長十年摂津国絵図」（県指定文化財・歴史資料）の範囲をランダムに踏破する「歴史ハイキング」を30回以上にわたり開催した。

また「歴史ハイキング」と並行して、市内を半日かけてじっくり巡るハイキング「歴史散歩」や小学生以下を対象にクイズを解きながら史跡等をまわる「こども・れきし・たんけん」などを開催してきた。

さらに、平成24年度からは歴史街道推進協議会との連携で、「魅力再発見西国街道」として西国街道や市内のローカル街道を歩く事業も実施してきた。

参加者からは、「興味ある場所に連れ行ってもらい解説が聞けるから楽しい」という声を多く頂戴する。しかし、場所によっては解説の声が届かないことや歩く速度の差によって解説をゆっくり聞けない参加者がいるという課題があった。

そうしたなか、広報課より平成27年度の事業として資料館のハイキング事業を生放送できないか、と相談があった。広報課では、西宮市及び芦屋市を放送区域とするコミュニティFM放送局「さくらFM」内の西宮市提供番組として、市の魅力をスタジオから出て現地で発信するコーナーを設けていた。これを拡大した特別番組「さくらFMウォーク」として実施できないか、という依頼であった。

現地に行くことができない市民にも、スタジオと現地をつないだ二元的解説



【写真1】さくらFMウォーク「鳴尾周辺の文化財をめぐる」（鳴尾一本松の解説）



で、現地に行ったような臨場感のある放送ができると判断し、「鳴尾周辺の文化財をめぐる」（平成27年11月1日実施）と「甲山周辺の文化財をめぐる」（平成27年12月6日実施）の2回のウォークを企画した。

## 事業の内容

### （1）内容

参加者は、FMラジオを持参し、史跡等見学先で引率する職員から解説を聞き、次の見学先までの移動中はスタジオにいる職員からより詳しい解説を聞いた。

### （2）利点

参加者は、解説を漏らすことなく聞くことができる。番組聴取者は、どこからでも現地へ行ったように臨場感のある番組を楽しむことができる。

また、タイムリーに番組聴取者から見学先や解説に対する質問を受け、これに回答することができた。さらにメールやツイッターといった方法で、参加者が現地からスタジオへ質問することもあった。これらは、通常のハイキングではできない新しい試みであった。

### （3）相違点

通常のハイキングと異なる点は、タイムスケジュールの管理が最重要課題であること。番組時間内に解散場所に到着することはもちろん、参加者からのコメントやスタジオでの総括時間も必要となり、常時に時間とのにらみ合いであった。しかも、申込み不要・参加費無料というこれまでのスタイルはそのまま実施したことから、当日の参加者数が読めず、時間内に見学先に引率できるのかが鍵となった。

無論、広報課の職員・さくらFMスタッフのフォローがあり、事業は成功したと思う。広報課の職員は時間管理と進行、さくらFMスタッフは進捗の伝達（フェイスブックを使い現地の進捗をつぶさにスタジオのスタッフへ伝達した）を的確に行った。

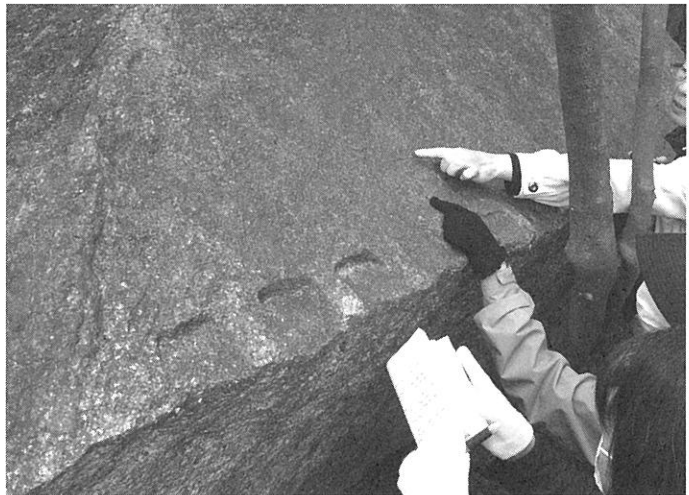
### （4）工夫点

引率する職員、スタジオ解説する職員全員が下見を行った。

見学地での解説内容は、3分～5分内に納まるよう各自コンパクトにまとめた。

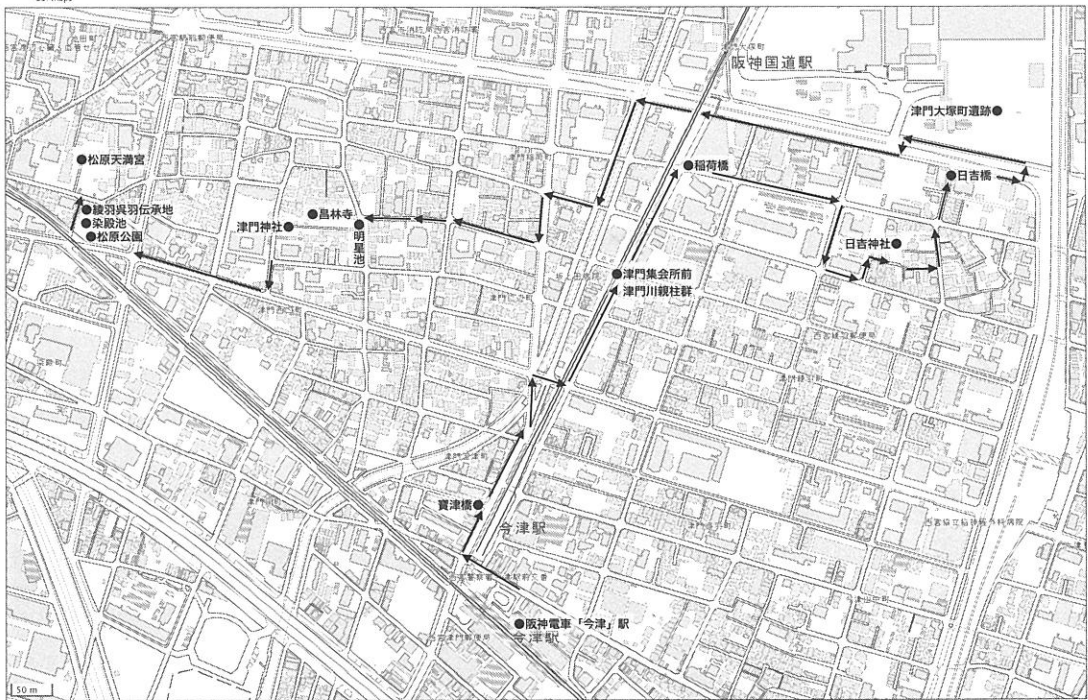
現地で配付する資料もA3折（表裏印刷）1枚で、内容もコンパクトなものにした。

現物を見ていない番組聴取者にわかりやすいよう、



【写真2】さくらFMウォーク「甲山周辺の文化財をめぐる」  
（刻印石を確認する参加者）





【第3図】 さくらFMウォーク「津門周辺の文化財をめぐる」ルート地図（国土地理院GSIMapsを使用）

解説の表現を工夫した。

スタジオで解説を担当する職員は、見学コースのポイントを下見段階で細部まで写真を撮影し、当日は写真で行程を追いつながら臨場感のある解説を行った。

時間調整用の見学候補地を設定した。

## むすび

広報課・さくらFMとの緊密な連携があつて「さくらFMウォーク」事業は成功したと思う。今年度も、「津門周辺の文化財をめぐる」（平成28年5月22日実施）、「瓦木周辺の文化財をめぐる」（平成28年11月20日に実施予定）を企画した。

今後も新しいツールを使って多くの市民に文化財の魅力を発信していきたい。

註

- (1) 「郷土資料館ニュース」第8号・第9号・第20号を参照。
- (2) 野外見学事業は、歴史講座の隣地見学会としてこれに先立って実施していた。

---

## 目次

## CONTENTS

- 第32回特別展示「西宮町人の生活と文化—江戸時代の日記を読み解く—」（衛藤彩子）…1  
さくらFMウォーク～ラジオから発信する新しい野外講座～（俵谷和子）…5